

# シルクハット翁が説く、 未来に対する「技術者の責任」

理事

大川 明美

Akemi Okawa



2024年7月に、20年ぶりに新しい日本銀行券（紙幣）が発行されました。新札発行の目的は、偽造対策の強化とユニバーサルデザインの向上です。今回、世界初の3Dホログラムが採用され、新札が初めて手元に来た時には、ついつい面白がって眺めてしまいました。半年経った今（執筆時2025年1月）では、お財布の中に新旧のお札が入り混じっており、新一万円札の肖像である渋沢栄一さんにお目にかかる頻度も増えてきました。

そこで、今更ではありますが、彼の著書である『論語と算盤』を読んでみたところ、大いに驚かされました。本書は100年も前に書かれたものであるにもかかわらず、SDGsの思想や企業におけるマテリアリティの考え方など、まさに今現在、企業に求められることがストレートに語られており、心に響く箇所が多かったからです。

渋沢栄一の実業家としての偉業は、大河ドラマをはじめ各種メディアでも多く取り上げられており、今更語る必要はありません。ここでは、技術者としての心構えや行動指針の観点で、私なりの思いを含めながら、本書を紹介したいと思います。

『論語と算盤』では、道徳と経済の調和が重要であると説かれています。つまり、「経済（企業活動による富）は正しい道理で行われないと持続できない」ということが基盤になっています。技術の進歩は社会を豊かにする一方で、その力を正しく使うことが求められます。技術は単なる道具ではなく、社会を変革する力を持っています。しかし、その力を誤用すれば、逆に社会に害を及ぼすこともあります。だからこそ、技術者としての責任を自覚し、倫理観を持って行動することが重要です。

渋沢栄一が説く「技術者の責任」を次の6つにまとめてみました。

**倫理的行動：**技術者は、技術の開発や使用において倫理的な判断を下す責任があります。これは、技術がもたらす社会的な変化や影響を予測し、負の影響を最小限に抑えるなどの適切に対応することを意味します。

**社会貢献：**技術者は、自分の技術が未来にどのように貢献できるかを常に考える必要があります。技術は社会全体の幸福に寄与すべきなのです。

**持続可能性：**技術者は、技術の持続可能性を考慮し、環境や社会に対する長期的な影響を評価する責任があります。例えば、エネルギー効率の高い設計や、リサイクル可能な材料の使用を推進することで、環境負荷を低減する取り組みが必要です。

**誠実さと信頼：**技術者は、誠実であることが不可欠です。約束を守り、品質の高い製品やサービスを提供することで、顧客や社会からの信頼を得ることができます。誠実さと信頼がビジネスの基盤であると説いています。

**教育と継承：**技術者は、自分の知識や経験を次世代に伝える責任があります。自分の知識や経験を他の技術

者と共有し、教育に貢献することで、チーム全体のスキル向上を図ることができ強い組織として成長していくのです。

革新と適応：技術者は、常に最新の技術や知識を学び続け、変化する環境に適応することで革新を継続することが重要です。これにより、技術者は常に最適な解決策を提供し、将来への一歩を進めることができます。

いかがでしょうか？皆さんが日頃なんとなく思い描いていることと相違はないかと思いますが、こうして明文化してみると、身が引き締まる思いがしませんか。

また、渋沢栄一は、若手技術者の皆さんへの教訓も述べています。各自が何らかの志（ビジョン）を持って入社した会社ではあるが、日々の業務に追われるうち、自分は会社にとって一歯車に過ぎないと感じて、先が見えず思い悩む方がいるかもしれません。大丈夫です。最初は、一歯車で良いのです。その役割を理解し、誠実にやり遂げることが第一歩です。その経験を積み重ねつつ、常に学び続けることで新しい技術や知識を習得し、自分自身を成長させることで、歯車としての役割以上の価値を提供できるようになるのです。

並行して、長期ビジョンと短期の目標を見つけることを意識しましょう。そのためには、自己分析⇒目標設定⇒継続的な進捗評価と見直し（まさにQC的手法!）というステップが良いと言っています。その際、長期ビジョンと短期目標に一貫性があるか、自分の価値観や信念と齟齬がないかを確認しましょう。また、これらを自分だけで設定するのではなく、時には信頼できる第三者の意見も取り入れることで思い込みや固定観念の排除ができます。長期ビジョンが今はしっかり見えていなくても大丈夫。自分に合ったビジョンは学びながらはっきりしてくるものだからです。

一方でベテランの皆さん。皆さんの持つ長年の経験と知識は、若い世代の技術者にとって貴重です。これまで培ってきたスキルを次世代に伝えることで、技術の進歩を支えることができます。あなたの知恵と経験が、未来の技術者を育てるのです。また、「精神老衰の予防」として、好奇心を持った継続的な学びと社会とのかかわりの継続が大切だと説いています。そしてそのためにも健康的な生活習慣を心がけましょう、と。（私としても耳が痛いですが。）

現在の技術開発は、より高度化・複雑化し、一人の力では限界があります。チームメンバーが各々の強みを発揮し、協力しないと目標を達成することができません。そのためにはコミュニケーションが大切なのは言うまでもないことですが、なかなかうまくいかないという話もよく耳にします。そんな時は、論語の説く「礼」や「信」が足りているのか自問してみましょう。尊敬の念を持って接することができますか、忙しさにかまけて誠実でない対応をとってはいませんか？自分が変わることで好転することがあるはずです。技術を通じて社会全体の幸福を追求・実現することが、真の技術者の使命です。自分のできることをやり切り、皆の、そして自分の未来を切り拓いていきましょう。

#### 参考文献

「詳解全訳 論語と算盤」渋沢 栄一（著）、守屋 淳（翻訳） 筑摩書房

「論語と算盤 モラルと起業家精神」渋沢 栄一（著）、道添 進（翻訳） 日本能率協会マネジメントセンター